

パネリスト報告 1

女性が社会を変える、世界を変える

湯浅 茂雄

ゆあさ・しげお／実践女子学園下田歌子研究所所長

湯浅—— 湯浅でございます。最初に話の進め方をご説明しておきますと、まずはスライドを使いながら、実践女子大学の学祖である下田歌子がどのような人物であり、どのようなことを目指したのかということをお話したいと思います。そして次に下田研究所が設置されました経緯と、実際にどのような事業を行ってきたかをお話することが、とりもなおさず本

学の「学祖研究の現在」の説明になるうかと思しますので、そういう二つのパートに分けてお話ししたいと思います。

今日のお話の副題を「女性が社会を変える、世界を変える」としまし





歌子、明治35年頃の肖像写真、小川一真撮影

た。下田にはこの言葉の元になる言葉がありまして、女子教育についての下田の様々な考え方を見ますと、おそらくここに収斂されるだろうと思いますので、これを副題にいたしました。「女性こそが社会を変えるのだ。世界を変えることができるのだ。そのような気概を持つて学び、社会で実践し、社会に貢献しなさい」ということでございます。これがもともと学生に伝えたいことでありますし、研究所の学祖研究の核になることです。また、それをどのように現代に即して活かしていくかということも、研究に関わってくるかと考えております。

次のスライドで、下田歌子の肖像を紹介させていただきます。これは実践女学校の創立後三年、明治三十五年頃の下田四十八歳の肖像写真です。わざわざ小川一真撮影と記したのは、我々が知っている夏目漱石の写真は小川一真撮影のものでございまして、ちょうど実践女子学園のあった麹町に写真館がありましたので、近いということもあって、小川が撮影したのだろうと思います。次に下田歌子略年譜の資料ですが、これは漫画本『きらりうたこ』の巻末略年譜です。『きらりうたこ』は、漫画家の牧野和子さんによる下田の自伝を、こちらから材料をお渡しして、プロの目で描いてもらったものです。

下田の略歴ですが、安政元年、一八五四年に生まれております。日米和親条約が締結される年で、日本はここから相次いで各国と和親条約を結びますが、日本が開国する、まさに近代日本の幕開けとともに生を受けたということになります。幼名は平尾鉛せきと言います。儒学者平尾録蔵りくざうの長女として出生しました。その当時、平尾録蔵は現在の岐阜県恵那市岩村で、藩の方針と考え方が合わず、幽閉されていました。今言うところストラされて、まったく収入がなく、非常に貧しい生活でした。学者として志は高かったけれども、経済的には困窮していたということです。

父が明治維新によって許され、東京に職を得ますと、鉦は明治四年、十六歳の時に父の後を追って東京に出てまいります。

下田歌子略年譜

西暦二一〇号一事蹟

1870	安永元年	英属国西郷郡村 萩原市市村町に岩村淳三平尾鑑の長女として出生 旧暦8月9日
1871	安永2年	母は死 幼名鑑(きき)
1872	明治3	父鑑、明治政府より宜敷使正の職を得て京(月)
1873	明治4	新上京(4月8日) 八田宛宛 加藤千和に和を学ぶ 今年の冬、祖母、母、弟が京する
1874	明治5	宮中に出仕(10月) 和歌の才能を愛でられ、皇后より「歌子」の名を賜る(12月)
1875	明治6	宮中を辞す(11月) 下田猛雄と結婚(12月)
1876	明治7	下田学校を開校(4月) 妹天学校と校を改称(6月)
1877	明治8	夫鑑没(5月) 祖母没(6月) 歌子、華英女学校校長の任に就く
1878	明治9	夫鑑没(5月) 祖母没(6月) 歌子、華英女学校校長の任に就く
1879	明治10	華英女学校校長に就任(1月) 歌子は専事教授に兼任「和文教科書」全10巻の編纂に着手(12月)
1880	明治11	華英女学校校長に就任(1月) 歌子は専事教授に兼任「和文教科書」全10巻の編纂に着手(12月)
1881	明治12	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1882	明治13	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1883	明治14	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1884	明治15	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1885	明治16	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1886	明治17	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1887	明治18	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1888	明治19	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1889	明治20	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1890	明治21	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1891	明治22	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1892	明治23	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1893	明治24	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1894	明治25	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1895	明治26	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1896	明治27	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1897	明治28	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1898	明治29	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1899	明治30	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1900	明治31	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1901	明治32	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1902	明治33	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1903	明治34	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1904	明治35	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1905	明治36	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1906	明治37	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1907	明治38	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1908	明治39	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1909	明治40	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1910	明治41	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1911	明治42	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1912	明治43	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1913	明治44	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1914	明治45	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1915	明治46	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1916	明治47	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1917	明治48	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1918	明治49	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1919	明治50	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1920	明治51	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1921	明治52	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1922	明治53	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1923	明治54	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1924	明治55	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1925	明治56	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1926	明治57	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1927	明治58	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1928	明治59	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1929	明治60	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1930	明治61	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1931	明治62	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1932	明治63	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1933	明治64	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1934	明治65	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1935	明治66	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1936	明治67	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1937	明治68	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1938	明治69	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1939	明治70	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1940	明治71	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1941	明治72	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1942	明治73	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1943	明治74	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1944	明治75	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1945	明治76	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1946	明治77	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1947	明治78	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1948	明治79	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1949	明治80	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1950	明治81	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1951	明治82	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1952	明治83	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1953	明治84	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1954	明治85	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1955	明治86	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1956	明治87	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1957	明治88	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1958	明治89	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1959	明治90	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1960	明治91	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1961	明治92	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1962	明治93	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1963	明治94	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1964	明治95	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1965	明治96	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1966	明治97	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1967	明治98	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1968	明治99	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1969	明治100	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1970	明治101	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1971	明治102	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1972	明治103	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1973	明治104	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1974	明治105	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1975	明治106	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1976	明治107	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1977	明治108	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1978	明治109	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1979	明治110	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1980	明治111	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1981	明治112	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1982	明治113	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1983	明治114	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1984	明治115	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1985	明治116	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1986	明治117	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1987	明治118	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1988	明治119	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1989	明治120	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1990	明治121	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1991	明治122	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1992	明治123	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1993	明治124	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1994	明治125	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1995	明治126	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1996	明治127	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1997	明治128	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1998	明治129	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
1999	明治130	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2000	明治131	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2001	明治132	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2002	明治133	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2003	明治134	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2004	明治135	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2005	明治136	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2006	明治137	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2007	明治138	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2008	明治139	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2009	明治140	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2010	明治141	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2011	明治142	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2012	明治143	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2013	明治144	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2014	明治145	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2015	明治146	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2016	明治147	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2017	明治148	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2018	明治149	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2019	明治150	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2020	明治151	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2021	明治152	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2022	明治153	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2023	明治154	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2024	明治155	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2025	明治156	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2026	明治157	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2027	明治158	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2028	明治159	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2029	明治160	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2030	明治161	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2031	明治162	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2032	明治163	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2033	明治164	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2034	明治165	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2035	明治166	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2036	明治167	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2037	明治168	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2038	明治169	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2039	明治170	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2040	明治171	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2041	明治172	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2042	明治173	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2043	明治174	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2044	明治175	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2045	明治176	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2046	明治177	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2047	明治178	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2048	明治179	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2049	明治180	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2050	明治181	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2051	明治182	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2052	明治183	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2053	明治184	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2054	明治185	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2055	明治186	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2056	明治187	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2057	明治188	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2058	明治189	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2059	明治190	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2060	明治191	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2061	明治192	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2062	明治193	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2063	明治194	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2064	明治195	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2065	明治196	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2066	明治197	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2067	明治198	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2068	明治199	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2069	明治200	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2070	明治201	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2071	明治202	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2072	明治203	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2073	明治204	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2074	明治205	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2075	明治206	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2076	明治207	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2077	明治208	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2078	明治209	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2079	明治210	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2080	明治211	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2081	明治212	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2082	明治213	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2083	明治214	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2084	明治215	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2085	明治216	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2086	明治217	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2087	明治218	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2088	明治219	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2089	明治220	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2090	明治221	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2091	明治222	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2092	明治223	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2093	明治224	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2094	明治225	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2095	明治226	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2096	明治227	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2097	明治228	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2098	明治229	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2099	明治230	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)
2100	明治231	和文教科書 全10巻編纂完了(5月)

『きらりうたこ』 巻末略年譜より

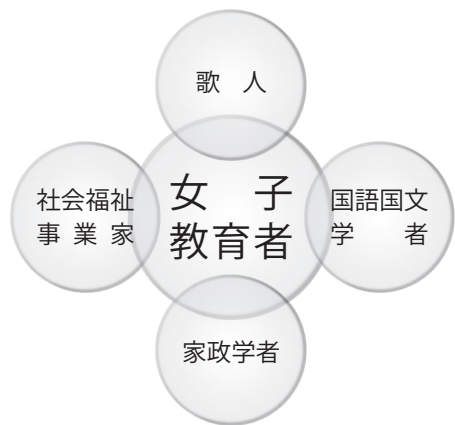
ここから平尾鉦は東京を活動の拠点にします。そしてその翌年、宮中に出仕することになります。その年の内に、後の昭憲皇太后から歌の才能を評価されて、「これからは歌子と名乗りなさい」と言われ、これより平尾歌子になります。宮中での出世もすぐ早かったのですが、結婚のために明治十二年に宮中を辞すことになります。

そして丸亀藩士で武道家であった下田猛雄と結婚して下田歌子となります。ただ下田猛雄はすぐ病気になるまで、まもなく亡くなってしまう。看病で大変でしたし、収入もなく、内職のようなこともしていましたが、そのような下田を世間は放っておかず、娘の教育を託そうとしました。そこで、明治十五年に下田学校という学校を作り、すぐ名前を桃天学校(とうてん)に変えて、上流子女の教育をしました。これは私塾ではありませんで、東京府に届けた正式な学校でした。ですから、この時から下田は女子教育に関わってきたことになりました。ただし、上流子女の教育ということでした。

その後明治十八年に、近代日本にとって重要な女子教育機関の華族女学校が開設されます。皇后の意志によって、すぐに下田がその実質的な校長職に就任することになります。その後、下田は明治天皇の皇女お二人の教育係に内定したことから、欧米の女子教育について学んできてほしいということ、天皇家から欧米に派遣されます。それが明治二十六年です。二年間、欧米で女子教

育を視察して、明治二十八年に帰ってきますが、その欧米視察で、一般女子の教育こそが女性の社会的地位の向上につながると確信し、帰国後「帝国婦人協会」を設立し、その趣旨のもとに明治三十二年、実践女学校・実践女子工芸学校を創設し、現在の本学園につながります。そして、下田歌子は昭和十一年、八十三歳で亡くなります。

次に、下田歌子の業績をまとめますと、女子教育を通して近代の女性の地位向上に貢献したということが真つ先に挙げられます。次に明治時代を代表する歌人であったことも重要な側面です。それから、国文学者・国語学者・源氏物語研究者としての側面があります。下田の源氏物語講義は外部からも多くの聴講者を集めました。さらに家政学者としての側面もあります。下田というと国文学者という側面が強調されがちですが、家政学者としての側面ももつと強調されなければならないと思います。ヨーロッパに旅立つ前、明治二十六年に『家政学』を出版しています。これは、女性の手になるオリジナルな著作としては日本初のものとなります。それまでも西洋のものを翻訳した家政学の本はありましたが、下田の『家政学』は自分の実際の講義を本にしたものです。さらに明治三十三年、『新撰家政学』という著書を新たにまとめます。この本は、中国でも当時の国情に合わせて翻訳、出版され、中国の家政教育に役立てられました。



それからもう一つ、社会福祉事業家の面がありまして、特に大正期に、愛国婦人会会長として活躍しました。すでに六十歳を超えておりましたが、たくさんの社会的弱者が生まれた関東大震災の際、罹災した人たちにも救いの手を差しのべました。

現在の実践女子大学、そして短期大学部も含めてですが、文学部・生活科学部・人間社会学部のもと、こうした下田の活動が基礎にあります。これらを概念図風にまとめますと、歌人・国語国文学者・家政学者・社会福祉事業家が、女子教育者として一つにまとまっているというように描くことができるように思います。

この源氏物語講義の写真には女学生ばかり写っていますけど、



大講堂での『源氏物語』講義の様子

この周りには國學院の先生方もいらつしやいましたし、男子学生もいました。坪内逍遙のシェイクスピア講義と並び称される名講義といわれました。晩年はこれほどの場所で講義することはかな

いませんでした。亡くなる直前まで源氏物語講義は続けていました。

故郷・岩村を発つ時に詠った歌を紹介したいと思います。「綾錦着て帰らずば三国山 またふたたびは越えじとぞ思ふ」。この歌を故郷を出て東京に向かう途中の三国山で詠っています。この歌は下田のものと知らなければ女性の歌とは思えないし、年齢が分からなければ十六歳の少女の歌とは思えません。一見、立身出世を願う歌と思われすけれども、決してそうではないことは、下田の人生が証明していると思います。社会に貢献することによって自己実現を図る、それができなければここには帰らないという決意の歌だと思えます。下田は生涯にわたって、私利私欲のために物事を左右した事は一度もないと私は思います。学生にはこの歌を必ず紹介して、若い女性の高い志がこの学園の原点であるという話をしています。

次に下田の女子教育への確信、百年の長計ということについて申しあげたいと思います。下田が欧米（イギリス）に行っている時に日清戦争が起きています。それについて下田は「大変なことを起こしてしまつた。兄弟の国と喧嘩してはいけないのに」ということを言っています。しかし「してしまつたのなら、政府はよつぽど将来のことを考えなければいけませんね」ということを言つた後で、「私は百年の長計を立てました」と言います。これ

が一般女子の教育のことでした。一人でイギリスに渡って大変な生活をしながら国を憂いているのです。それが直接的には実践女子学園につながりました。そしてもう一つ、女性の目からの教育ということについて申しあげますと、下田はイギリスで貴族のご家庭のご婦人と友達になり、その家に寝泊まりすることができたということもあって、イギリスの女子教育を家庭の内側から見る事ができた、ということを書簡に記しております。それは女子の目をもって見なければわからないし、しかもそれをただ引き写すように持つてくるだけではだめで、やはり日本の事情に合わせ、換骨奪胎して移植しなければだめだと、非常に重要なことを言っております。

そして帰国後、和漢洋の知識を活かした文章で「帝国婦人協会設立主意書」をまとめ、賛意を募りました。板垣退助らたくさんの方々が賛同者が寄付をいたしました。この主意書の中に、「揺籃を揺るがすの手は以て能く天下を動かすことを得べし」とあります。つまり「ゆりかごを揺る手は、天下を動かすのだ」というわけです。これはアメリカの十九世紀の詩人 William Ross Wallace の「The Hand That Rocks The Cradle Is The Hand That Rules The World」を出典にしていることは間違いないと思いますが、下田は下田なりの意味をこめてこのように言っています。この下田の言葉をもとに、副題に記しましたように「女性が社会を変える、

世界を変える」と私は表現したいと思います。本学の建学の理念として、とても大事な根拠となるものだと考えています。

下田は明治三十二年に実践女学校・同女子工芸学校を作りましたが、実はあと二つの学校を作っております。同付属慈善女学校と同付属下婢養成所です。これはまったく学費を必要としない学校と家政婦の学校で、下田はのちに愛国婦人協会の会長となりますが、明治三十二年の段階で、社会的な弱者を救済しようとする下田の意志が明確に窺えます。ただ時代が早すぎて、これは継続できず、実践女学校・同女子工芸学校だけが発展して、今の実践女子学園があるということです。

最後になりますが、下田は女性の社会的地位の向上の拠点として実践女子学園を作ったのですが、実は他にも、現在の新潟青陵学園をはじめとして、いくつもの女子教育機関の設立に関わりました。実践だけがよければいいということではなく、実践を一つの拠点として、日本の、そして広く世界の女子教育をより良いものにしたかったという下田の意志も、我々が継承していかなくてはならないことだと思います。

次に、下田歌子研究所の設立の経緯を申し上げることによって、本学の学祖研究の現在を述べたいと思います。二〇〇八年から二〇〇九年にかけて、本学では初年次教育の見直しの検討に入りました。これは私が学長職にあった最初の二年間です。そして三年

1 学祖研究と本学の自校教育

2008.4 } 初年次教育見直しの検討
2009.3 }

2010.4.1 実践入門セミナー（大学・短期大学部必修）を含む実践スタンダード科目群（必修）運用開始。
実践入門セミナーの授業プログラムの一つとして「下田歌子に学ぶ」を設定。
同時に夏季セミナーとして「下田歌子に学び、岩村に学ぶ」（通称「学旅」）が始まる。学年、学部を問わず、自由参加。現在も継続中。
なお 2014 年より「下田歌子に学ぶ」の内容は、学部・学科の教育内容に即して「自校教育——「実践」を知ろう」というプログラムの中で展開されている。

2011.3.3 『きらりうたこ』（牧野和子著 実践女子学園監修 小学館スクウェア）刊。
全学園の生徒・学生に配布し（2012.4 以降は新入生に配布）、学祖・校祖教育に役立てている。

2012.4.1 } 実践女子学園プロジェクト研究として「下田歌子研究所」
2012. } 発足
2013.4 }

2014.4.1 実践女子学園下田歌子研究所を日野キャンパスに設置。専任の主任研究員と 8 名の非常勤研究員及び事務長を含む 3 名の事務職を置く。
刊行物としては、「ニューズレター」（年 3 回）と研究所年報告『女性と文化』（年 1 回）がある。また、年 1 回のシンポジウムと講演会の開催を行っている。



現在

目に「実践入門セミナー」という授業科目の中で「下田歌子に学ぶ」という時間を全学必修で設定し、自校教育を具体化しました。また、二〇一一年三月には『きらりうたこ』という漫画本を作り

ました。これは一般書籍として、本学だけでなく、男女・世代関係なく広く下田の目指したものを知ってほしいということで制作したものです。これは現在も新入生に無償で配っております。そ

2 実践女子学園下田歌子研究所規則（目的・事業）

（平成 25 年 10 月 25 日 制定 平成 27 年 3 月 28 日 改正）

（目的）

第 1 条 この規則は、学校法人実践女子学園（以下「学園」という。）が、創立者下田歌子の業績並びに学園の歴史に関する調査・研究を行い、将来にわたる学園のあり方を模索するとともに女子教育の発展に資することを目的として設置する実践女子学園下田歌子研究所（以下「研究所」という。）に関する必要な事項を定める。

（事業）

第 2 条 研究所は、次の各号に定める事業を行う。

- (1) 下田歌子に関する資料の収集・保管とその業績に関する調査・研究
- (2) 学園の歴史に関する資料の収集・保管と調査・研究
- (3) 学祖教育、自校教育に関する調査・研究
- (4) 女子教育のあり方に関する調査・研究
- (5) 下田歌子の業績に関連する機関との連携事業
- (6) 前各号を踏まえた教育活動及び成果の発信

3 下田歌子研究所の事業計画（本年度を例として）

平成 27 年度、下田歌子研究所は「実践女子学園下田歌子研究所規則」（平成 25 年 10 月 25 日制定平成 26 年 4 月 1 日施行）第 1 条（目的）、第 2 条（事業）に則り、以下の事業を行う。

本研究所は、下田歌子の建学の精神をふまえ、現在・未来において女性たちがよりいきいきと活躍できる社会の構築を目指し、それに資する施策・思想を広く社会に発信していくことを事業の柱とする。

下田歌子は明治の新たな時代にふさわしい女性の生き方を模索し、ひとつとに示そうとしたが、その思想・事績をあらためて学術的に検証し、同時に学園の歴史研究・調査をもあわせて進めることで、近・現代女子教育のあり方を再検討しながら、現代・未来の女性の生き方、女子教育のあり方等を考えていく。

① 男女共同参画社会の実現と女性のキャリア支援に関する調査・研究・提言

本研究所は、女性の多様なライフステージ全般を視野に、女性が元気に活躍することが出来る社会の実現を目指し、教育や支援に関する調査・研究を行う。

また、上記に関連させながら、女子教育のあり方に関する調査・研究を行う。

② シンポジウム・講演会の開催

上記の趣旨を踏まえて、シンポジウム（年 1 回）、講演会（年 2 回程度）を開催し、学園内外に対して積極的な発信・提言を行う。

③ 研究会の開催

所員を中心とし、また、その都度のテーマに相応しいゲストを迎えながら、研究会を定期的に開催する。テーマは、男女共同参画や女性・教育をめぐる諸種の話題、下田歌子の思想や事績等、本研究所の活動全般にかかわるものとする。

また、岐阜県恵那市でも下田関係資料の掘り起こしや実地踏査を行い、現地の方々との連携も図っていく。

④ 『下田歌子研究所年報』及び「下田歌子研究所ニュースレター」の発行および発送

『下田歌子研究所年報』は、所員および投稿による論文、シンポジウム・講演会の記録、研究所の活動記録、新収資料報告等を内容とする。

「下田歌子研究所ニュースレター」は、4～8 ページ程度のボリュームとし、年 3 回の発行を目指す。即時的かつ比較的柔らかな内容の掲載を想定する。

⑤ 下田歌子の著作のデジタル化事業

現在、下田歌子の著作は絶版となっており、学生、生徒、一般の人が下田の著作、言葉に触れる機会が得られない現状に鑑み、重要性の高いものから、その著作のデジタル化を行う。これを基礎に下田歌子の著作の復刊を目指したい。

⑥ 下田歌子の事績研究・学園の歴史研究とその資料収集、アーカイブ化

未だ明らかになっていない下田の事績や資料の収集、学園の歴史についての再検討を行う。特に一次資料については、これまでの収蔵品も含めてアーカイブ化を図る。

また、下田の欧米女子教育視察の実地踏査、および、清国女子教育施策の実地踏査派遣のための予備調査を行う。

⑦ 下田歌子・学園資料の修復

学園の文献資料の中には、かつて水をかぶり、現在板状のまま段ボール箱に眠っているものがあるため、これらの修復を行う。

また、これまでの収蔵品の中でも補修が必要なものについては、順次、年度計画を立てて取り組む。

⑧ 「下田歌子電子図書館」の運営に関する図書館との連携

現在、図書館が運営する「下田歌子電子図書館」運営経費については下田歌子研究所が負担する形で、図書館との連携を行う。

⑨ 関連機関との連携事業

女性にかかわる諸種の課題に取り組んでいる機関（国立女性教育会館等）や他校の女子教育機関等との連携を図り、今後のさらなる事業展開を模索する。

また、他機関との合同の研究会や講演会の開催も視野に入れる。

⑩ 自校教育へ積極的な参加

例年夏に催される「学旅」に所員が参加し、下田の事績についての講義を行う。また「実践入門セミナー」においては、依頼があれば、所長及び研究員が進んで自校教育プログラムを担当したい旨の表明を行う。

⑪ 創立 120 周年学園史補遺版の編集

本学園は 2019 年に創立 120 周年を迎えるが、それにあたり創立 100 周年以降の学園史補遺版の編集を行う。

してさらに二〇一二年から二〇一三年、実践女子学園プロジェクト研究としての下田歌子研究所がございました。この時にプロジェクト研究として広く有志を募って、研究を具体的に始めました。その三年間の実績をもとに昨年度から学園設置の研究所として開設され、主任研究員を置き、事務員、部屋、予算をつけてもらっています。次に資料の「下田歌子研究所規則」を見ていただきますと、この「事業」第2条の定めにしたがって、その次の資料「下田歌子研究所の事業計画」があります。本年度を例としますと、①から⑪までございます。大事なことは、歴史的 연구によつて下田が当時目指したものを掘り下げることも重要ですが、それだけでは決して学祖研究にはならない。現代の状況において役立たなければ学祖研究にならないということです。殊に男女共同参画、女性が活躍する社会において、この学園として何ができるかということの研究と提言が、研究所を設立した大きな趣旨でもあります。それとともに、下田についてまだわからないことがたくさんありますので、その研究も続けていく。それから、まだまだ下田の資料は足りていません。そしていろいろな所で、下田の資料はまだ出てきています。その収集も研究所の仕事です。そしてそれをアーカイブ化して、ためるだけではなく、利用できるかたちにする。それから、なるべくいろいろなところで下田について話をし、また、他の女子教育機関との連携もしたいということ、

事業計画を立てて動いています。

下田の目指したものと研究所の活動ということで報告をさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

伊藤—— 湯浅先生ありがとうございました。

それでは次のお話は、東洋大学学長の竹村牧男先生にお願いいたします。東洋大学は今一番元氣のある大学の一つですが、その学長をお務めになつて現在すでに三期目でいらつしやいます。国際教育やキャリア教育といった現代的取り組みと同時に、学祖井上円了に学んだ哲学教育というものを大学運営の核に置いて、井上円了研究センターを昨年開設されるなど、学祖に学ぶことで独自色を打ち出し、それが実を結んでいる東洋大学の取り組みについてお話を伺えると思います。それでは竹村先生、よろしくお願ひいたします。